女子青年における痩身願望についての研究

A53161 村礒　良美

【目的】

仮説１、痩身に対するメリット感･現体型に対するデメリット感をより多く見積もるほど、その個人の痩身願望は高くなる。

仮説２、現在の BMI が高い人ほど痩身願望は高くなる。

仮説３、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求が高い人ほど痩身願望は高くなる。

仮説４、自尊感情が低い人ほど痩身願望は高くなる。

仮説５、ボディイメージのズレが大きいひとほど痩身願望は高くなる。

【方法】

淑徳女子学生 200 名を対象に質問紙法で実施した。尺度は、痩身願望尺度、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度、自尊感情尺度、体型に対するメリット、デメリット尺度を用いた。

【結果】

痩身願望については、痩身のメリット感、現体型のデメリット感、拒否回避欲求、自尊感情の間にそれぞれ有意な正の相関がみられた。（表 1）痩身願望を規定する最も強い要因は、痩身に対するメリット感であった。（表 2）

表１　各尺度と痩身願望の関係

	痩身のメリット感	現体型のデメリット感	現在のBMI	賞賛獲得欲求	拒否回避欲求	自尊感情	ボディイメージのズレ
相関係数	0.76***	0.58***	-0.17	-0.22	0.5***	0.42***	-0.31

*** p〈.001

表２　痩身願望に対する重回帰分析

独立変数	標準偏回帰係数
メリット	0.69***
自尊感情	0.23***
ボディイメージのズレ	－0.10*
R^2	0.67***

p<.05*，p<.01**，p<.001***

【考察】

①本研究の被調査者の痩身願望の強さは、自己の身体を今よりスリム化することが、自己の幸福（「自分に自信が持てる」、「様々な洋服を綺麗に着こなせる」、「異性からモテる」など）にとってどの程度有効であると考えるかによって規定されていたといえる。

②仮説２が支持されなかった要因として、本研究の被調査者が低 BMI であったこと及び BMI の高低の開きが大きかったことが考えられる。

③本研究の被調査者の痩身願望の強さには、賞賛獲得欲求よりも、拒否回避欲求の強さの方がより大きく影響していたといえる。その要因として、本研究の被調査者は、現段階ですでに「痩せていて、外見が魅力的」であったため、痩身を周囲からの肯定的な評価、承認を求める手段として認知しなかったと考えられる。

④仮説４が支持されなかった要因として、本研究の被調査者が低 BMI であったことが考えられる。本研究の被調査者は、現段階ですでに流行りにあった（スリムな）体型であったため、痩身を自尊感情を高める手段として認知しなかったと考えられる。

⑤仮説５は支持されなかったが、本研究の被調査者の現在の平均 BMI は 20.67、理想の平均 BMI は 17.72 であり、理想 BMI は日本肥満学会の基準で痩せと判定される 18.5 を優に下回っていた。したがって、本研究の被調査者も従来の研究同様、健康上適切な体重であるにも関わらず自分の体型に満足しておらず、「痩せ」を理想としていたといえる。

【文献】馬場安希.菅原健太.鬼頭加奈　2001「女子青年における痩身願望についての研究」
田崎慎.今田純雄　2004　「大学生男女における自尊感情と痩身願望の関係」